

## フィリピンにおける日本脳炎について

井上 真吾<sup>1</sup> ALONZO MARIA TET<sup>2</sup> TADENA FLORENCIO P.<sup>2</sup>  
MATIAS RONALD R.<sup>3</sup> NATIVIDAD FILIPINAS F.<sup>2</sup> 森田 公一<sup>1</sup>

長崎大学 熱帯医学研究所 分子構造解析分野<sup>1</sup>

Research and Biotechnology Division, St. Luke's Medical Center, Quezon City, Philippines<sup>2</sup>  
Institute of Biology, University of the Philippines-Diliman, Quezon City, Philippines<sup>3</sup>

【目的】フィリピンにおける日本脳炎（JE）の浸潤度について明らかにするため、2002年から2003年にかけて採集した脳炎ならびに無菌性髄膜炎患者からの脳脊髄液（CSF）ならびに血清中の抗JE抗体を調べた。今回JE陽性患者の年齢的分布、季節的発生分布、地域的分布について解析したので報告する。あわせて血清疫学的調査として2002年5月から2003年10月まで採集したブタ血清の抗JE抗体陽性率を調べ、JEの季節的発生分布を明らかにしたので報告する。

【材料と方法】2002年から2003年にかけて脳炎ならびに無菌性髄膜炎患者からの脳脊髄液（CSF）329検体、血清114検体をIgM capture ELISAにて測定した。次に2002年5月から2003年10月までルソン島南部タナイ町食肉センターにて毎月約40頭のブタ血清を採集し、合計684検体の抗JE-IgMおよび抗JE-IgGをELISAにて測定した。

【結果と考察】脳炎ならびに無菌性髄膜炎患者のCSF329検体中38検体（11.6%）、血清114検体中21検体（18.4%）でJEに対してIgM陽性で、前回の結果とほぼ同様な値であった。1999年から2003年までの5年間で得られたJE陽性患者52名のうち年齢の明らかな31名について分布を観ると、25例（80.6%）が20歳未満の若年層であった。月別発生数について調べてみると、年によりばらつきは有るが7月から11月にピークが認められ、雨季の期間と合致する。JE患者の地域的分布としてはメトロマニラ近郊では北部のTarlac地方で多くの患者が報告された。また、ブタの血清疫学的調査の結果も2002年、2003年共に7月から9月にかけてピークを示しており、ヒトにおけるJEの発生時期と合致したことから、フィリピンにおけるJEの流行時期は7月から9月頃と考えられる。ウイルス分離については現在継続中である。

---

Japanese encephalitis in the Philippines

SHINGO INOUE

Department of Virology, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Nagasaki,  
Japan